

特集 西澤静男先生

千里山会会員の皆様

故西澤静男 長男 西澤 瑜伽史

拝啓

向春の候、庭の沈丁花も小さな花を一輪、また一輪と開き始め香りを楽しめるようになりましたが、皆様にはご健勝のことと拝察し心からお喜び申し上げます。

また、奥田様には、愚息、都輝彦とのメール交換を通じてご丁寧なご依頼を頂戴いたしましたことに厚くお礼申し上げますと共に、資料の整理に手間取り返答が大変遅くなりましたこと誠に申し訳もなく、心からお詫び申し上げます。

奥田様を始め千里山会の皆様からの温かなお心寄せに亡き父もさぞ喜んでのことと存じますし、私も会報誌「千里山」を拝読いたしましたして、懐かしいお名前やお写真の数々から幼き頃の事々が思い出され、まるで「タイム・マシン」で過去に旅したり、

「タイム・カプセル」を開いた時のような感激を味わうことが出来ました。

ご期待に添わねばと存じまして、父にまつわる千里第二小学校当時の写真類を捜しましたが、私の記憶にあつた写真類がどういう訳か余り残っておりませんので、お役に立たないかも知れませんが、以前に出していた画集と写真等で見つけたものを少々ですが送らせていただきますので、よろしくお取りはからいの程お願い申し上げます。(なお、写真や資料類の説明資料をファイルに添えさせていただきます。) (います。)

校舎をバックに西澤先生



私にとりまして、父に連れられて度々訪れた千二小学校や分校の校舎：（組別も星組、月組等であったと記憶しますが、宝塚歌劇団のようだと言った感じがしました。）

さらには、幼い時からヴァイオリンの練習に毎週通った尾川原様のお宅や噴水や千里山の住宅街の風景は本当に思い出深く、忘れることが出来ません。特に、尾川原様には今回のことに関してご連絡を頂戴し、電話を通してお聞きした懐かしいお声に、夢中になってお話しをさせていただきました。

尾川原様は、父が存命中に何度もご訪問いただき、私が長じてからも幾度かお会いしておりましたが、その折にも幼い時から特に可愛がっていただいたこともあり、どうにも頭が上がりません。お姉さんという意識が植え付いているため、子供時代と同様その迫力に圧倒されたことを思い出します。

今から10年ほど前所用で千里山へ行った際に、急に思い付き記憶を辿って捜し回りましたが、どうしても見付けられませんでした。（それもその筈、尾川原様のお話ではずっと以前に取り壊されていたことでした……残念。）

今回のお便りが契機となって、我が家にお越しに

大森様、日向様、平田様……良く父は母と話す中で、ヒラタタンと親しみを込めて呼んでいましたし、大森さんと父がワラジやタワシ、ジャガイモ？と掛け合い漫才風のやりとりをされていたことが思い出されます。（余計なことですが、大森さんが北海道大学に進学された時には、なぜか？妙に納得したことを覚えています。）

私は、父が怖くてたまらず、聞き分けの良い息子を常に演じてきましたので、そんなやりとりが出来る関係をずいぶんうらやましく思ったものです。今にして思うと、私を通った吹田第二小学校に因む事柄より、千二小学校の先生方や絵の勉強にお越しであった皆様方の印象の方が鮮明に記憶されているようです。

また、学校の勉強については、いくら頑張っても成績を上げましたが、「黒川君は、日向君はこんなものではない、お前は出来が悪い、頭が悪い」と言われ続け当時はずいぶん恨んだもので、本当に家出を考えた程でした。（この計画は実行寸前に発覚しました。）

また、当時の父が神経質で、虚弱体質のため痩せ細っているのを日向方齊さんがご心配下さり「山羊

なられていた皆様方や千二小学校の先生方のお顔やお名前が次々と思い出すことが出来ました。

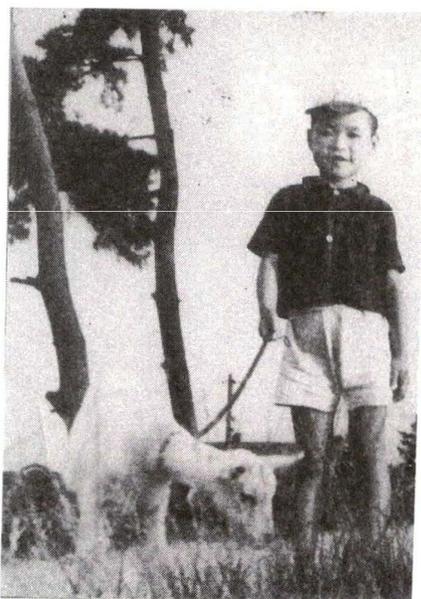
木岡校長先生や太田先生、木島先生、柳生先生、松田先生、東谷先生、橋高先生、小川先生……（小川先生には、雑誌に掲載されていた「蓄膿症の治療薬」の広告のマスケットキャラクターにそっくりと幼心に思ったものです。）松田先生には、片山のお宅で勉強を見てもらっていましたし、私が考古学が好きだと知られると「八杉龍一著・生き物の歴史・光文社刊」という本を下さいました。この本は、その後何度も読み返し、赤鉛筆の朱線を残したまま大切な蔵書として手元に置いております。

ああ疲れた 遠足に行った先で？



の乳を飲めば栄養価も高くて体に良い」として千里山のお宅からわざわざ徒歩でザーネン種の山羊（後、シロと名付け、旧のアトリエの後ろ側に庭に面して小屋を造り飼っていました）を連れて我家に届けに來られたことや、寄せて頂いた日向さんのお宅の生け垣や山羊小屋の屋根一杯に餌にするサツマ芋のツルが干してあったことなどが思い出されます。

山羊のシロと瑜伽史さん



さて、父のことですが、元来四条派の日本画家として福岡青嵐、梅原香堂に師事し学んでおりましたが、その後洋画に転じ千二小学校退職後は「銅版画」の世界に辿り着いたもので、国内最大の版画団体である日本版画協会に参加し何度か受賞を重ねて会員となり、また、時に協会展の審査委員長を務めたりして活動していました。

特に、ライフワークとしては「文楽シリーズ」が代表的で、その他に「源氏物語」や「川端康成作品シリーズ」があります。

版画とは言え、根が日本画家ですので、特異な技法が採られ多作に向かないため、作品数は少ないと思います。

残念ながら、日本国内では高い評価は得られませんでした。外国の方には大変喜ばれたようで、画商を通じて「感動したので家宝にする」とドイツ人の方からメッセージが寄せられたこともありまして、「ニューヨークで作品を見て感動したので会いに来た」とゼネラル・エレクトロニクスの原子力関係のアメリカ人が来日した機会に面会に来宅したこともありました。

また、韓国人の画家「孟一容さん」が弟子入りされ、

「ララ物資のGLEーシヨン」の中に入っていた板ガムしか知らない身にとって、後から思うと「ハーシーのチョコトリグラーの糖衣ガム」だったでしょう。余りの美味しさに驚くと共に食べ始めると止められず、一挙に全てを完食してしまいました。(後で天罰として、銭湯で鼻血を大量に噴出させました！)

今でも、もつと楽しんで食べれば良かったのにと後悔しています。

さて、昭和17年6月生まれ私も今年で67歳、勤務していた田舎の市役所を身体障害者・知的障害者の方々のための訓練施設の施設長を最後に定年退職し、はや7年目を迎えました。同じく今年満65歳となる妻と庭に作った家庭菜園の世話と、最近ソフト・バンクのCMで有名になった「北海道犬」(我が家では北斗と名付けています。)とその娘「雑種・花梨」、更には父が存命中から飼っていた「大型インコのピーコ」を話し相手に、万葉集中の大夫旅人卿の歌にある「この世にし 楽しくあらば来む世には 虫にも鳥にも我はなりなむ」をモットーに酒は飲めませんが日々送らせて頂いております。

当時のことについては、まだまだ語り尽くせないものがあります。余りの拙文に呆れられていることと存じますので、この辺りで筆を置かせていただきました。存じま

素晴らしい才能を開花されて帰国後韓国で大学の教員を兼ねながらご活躍されているご様子です。(お名前はメン・イルヨンとお読みします)

ただ、取り巻きの中に余り感心しない方もおられるようになり、家庭不和を招く結果を生んだことは残念なことです。(母が別居する原因となりました。)

そのような関係で不遇の内に平成9年5月28日に亡くなりました。

皆様も覚えておられる方もあるかと存じますが、少々小太りであったその母も、平成18年10月26日に亡くなりました。

家庭内のことで、詳しくお話し出来ない事柄が多々ございますので簡単に終わらせて頂きましたが、お許しの程お願い申し上げます。

ところで、11号の会誌の訃報欄で、日向暢子様がお亡くなりになったとこのことを知りましたが、心からご冥福をお祈り申し上げます。

ご留学で渡米され、ご帰国された際のお土産として小学生だった私にチョコレートとガムを下さったことを今も忘れずにおります。

戦時の食糧難の時代がまだ続いていましたから、質の悪いチョコレートと風船ガム、そして、時に配給される

す。

最後になりますが、このような機会を与えてくださいましたことに改めてお礼申し上げますと共に、千里山会のご発展とご会員皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

.....本当に有り難うございました。

千二小の先生方と 懐かしい用務員の中村さんの顔も



西澤静男先生年譜

- 1912年 兵庫県神戸市に生まれる
- 1948年 4月27日付で千里第二小学校に奉職
- 1952年 3月31日付で同校を退職
- 1963年 第31回 日本版画協会展入選（以後毎回入選）
- 1966年 第34回 日本版画協会展にて受賞
- 1967年 第35回 日本版画協会展にて会友推挙
イタリア、ピストイア版画ビエンナーレ招待。同市博物館所蔵。
- 1969年 第37回 日本版画協会展にてカナエ賞受賞
会員に推挙される
韓国版画展招待
- 1973年 米国カリフォルニア。カプス東京イクズビット出展
- 1974年 トロント、アートジャパン展招待
第12回個展（星座シリーズ）
パリー近代美術展「現代若き銅版画展」招待
画集「源氏女人抄」発刊
- 1975年 個展（花シリーズ展）及び画集「花」発刊
- 1977年 スイス、ジュネーブプティパレ美術館にて「文楽」永久所蔵
- 1982年 浜松市美術館「文楽 おこま」ほか 買い上げられる。
- 1983年 文楽画集「情念の世界」刊行される。
スウェーデンより川端康成文学作品に因む版画制作を依頼される。
- 1984年 中華民国国際版画展招待
現代日本絵画代表作家スペイン展招待
その他毎年東京、大阪、京都にて個展を開く。特に83年、大阪セントラル
画廊にて版画西澤静男の世界展を開く（総点数135点）
ノーベル賞受賞者を称える“ホメジ オ プリ ノーベル”の一環として、
画集「川端康成シリーズ」を完成。スウェーデン国王に献本される。
- 1985年 スウェーデンより源氏物語12作シリーズを依頼される。
- 1986年 現代日本代表作家カナダ展に招待される。
- 1987年 スウェーデンよりの依頼作品源氏物語12作完成（11月）
- 1988年 スコットランド・ダンディ市において現代日本絵画代表作家展招待。
大衆賞受賞。
- 1990年 オーストラリア国際日本版画展、同美術館買い上げ
- 1991年 イタリア国際版画展、ギリシャ国際版画展招待。
ギリシャ、テキロニキ市美術館所蔵
- 1992年 日本版画協会より出版の著名作家の作品を集めたオリジナル画集「東京百景
21世紀へのメッセージ」、日本美術家連盟より出版の同じく「平成の富士」
に作品が収録される。
ブラジル国際版画展招待、全土を巡回
- 1994年 中華民国国立歴史博物館展出品
- 1996年 スロベニア展出品
- 1997年 5月28日に急逝される。

所蔵 大英博物館
ピストイア市博物館（イタリア）
プティパレ美術館（スイス）
大阪府立現代美術センター
浜松市美術館